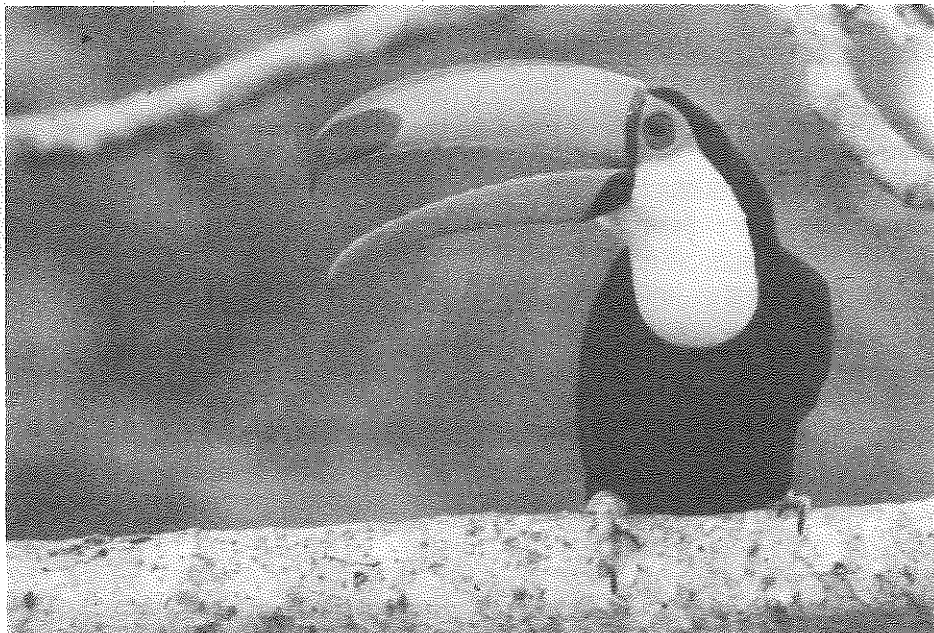


Save The Tropical Forests



森の通信

2013.4.23



ブラジルの国鳥・トッカーノ (ブラジリアの動物園で/1989年) by Nishioka  
—この鳥はブラジル中央部のセラードなど各地に住んでいた。セラードも牧場  
開発で年に東京ドーム1.2個の300万ha消滅し、2030年に消滅の危機だ!

CONTENTS

- people (28) ハレン村のスタンタン …… 3P
- ウェタン25周年に際して・石崎雄一郎 …… 4P
- ウェタン2013 活動方針 …… 6P
- 寄稿 湯川れい子 …… 7P
- 「森と生きる人の願い」 田辺美穂子 …… 10P
- 雨降で揺れる村へ・中村彩乃 …… 13P
- 世界の森林ニュース …… 17P
- 会計より …… 18P
- タンジュンアティン国立公園の  
スタンタンと森を守るための  
DMに協力依頼 …… 19P

【事務局長退任・新代表として】 西岡良夫

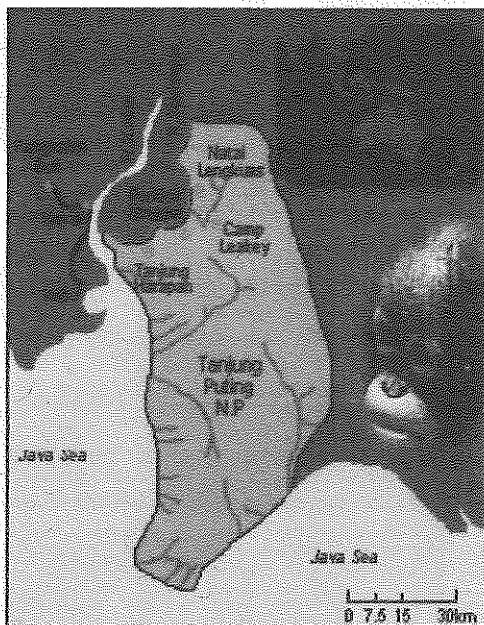
ウータンは、25周年を迎え新たな体制となった。長年、事務局長の私・西岡が退任し、新事務局長に石崎雄一郎氏が就任。私は「ウータン総会」で今までウータンの組織のポストになかった代表と選出され、再度、頑張りたいと思っています。

新事務局長・石崎氏は、この間タンジュン・ブティン国立公園のアブラヤシ企業の開発計画に対し、現地インドネシアと密な連絡を取り、新事務局長の任を全うして素晴らしい働き。私はウータンの組織や活動方向の確認という仕事内容を遂行していきたい。

今、タンジュン・ブティン公園は大変な事態になっている。木材マフィアが多い中カリマンタンだったが、違法伐採の相次ぐ停止により、木材マフィアがアブラヤシ企業オーナーに変わったりもした地だ。タンジュン・ブティン公園で違法伐採が完全に停止し、私達も現地の植林活動をするNGOを支援してきた。

しかし今、植林活動を多くの村人が止めたし、アブラヤシ開発の経済で生計をたてようとしている。一理はあるが、多くの生物が生息できないようになるという現象を村人は肝に銘じてほしい。村長というリーダーは、企業からお金を貰いアブラヤシ開発に奔走しており、襟を正すべきだ。生命の大切さを伝えることが将来への展望ではないか。問題があれば見直し、正しい方向へ導くのが役割だろう。自分や身内がよければでは村は良くならない。それでは多くの原生林を破壊し、自らの家族に財産を蓄えたサラワク州の首相タイプ氏と同様となるではないか。国立公園近くで居住を続けることは、PR すればエコツアーからの経済的な恩恵という得点もあり、他地区より経済的に恵まれるのだ。生物保全を意図して暮らし、多くの生物と人間が共存する暮らしを目指せるのではないか。

私は、今後ウータンとしてどのようにするか等を仲間と話し合い、行動が必要だと思う。代表というポストに負けないよう頑張りたいと思いますので、今後とも宜しくお願いします。



### 【ウータン活動報告】

- 2012・12・15 アブラヤシ研究会へ石崎、笠原等参加
- 12・25 通信「ウータン 107号」発行
- 2013・1・8 ウータン、25周年へむけて方針等の会議
- 1・22、29 ウータン、25周年へむけて方針等の第3回会議
- 2・2-3 ワンワールド・フェスティバルへ参加。エコツアー参加者も協力の[植林アンケート]約200件
- 2・11 ウータン25周年記念総会、講演\*JACSES代表・古澤広祐氏、当会顧問・大西裕子弁護士  
\*事務局長の交代、\*活動方針の確認、\*[植林アンケート]の内訳集計、\*エコツアー等
- 3・1-20 中村、タンジュン・ブティン公園等へ調査

# People(28) save! the World's Forests

\*\*\* Stop! Oil Palm Plantations! \*\*\* Save! Orangutan \*\*\* Stop! Development in peatland\*\*\*

—タンジュン・プティン国立公園(Tanjung Puting NP)でオランウータン 2 度目の危機！

2005 年より違法伐採完全停止で野生オランウータン(森の住人)が戻るも、危機に！

同公園(TPNP)で保護オランウータンの餌場もアブラヤシ開発の地へ消滅の恐れ！



危うし！タンジュン・プティン公園ハラパン村の餌場のオランウータン(写真と文・Nishioka)

2008年に国連環境計画は、2002年よりワシントン条約保護種のオランウータンが生息地の減少で、6万頭と報告していた。2012年、オランウータン保護団体の報告でさらに減少し5万頭弱と。オランウータンは低地熱帯林で生存していたが、1950-2000年の泥炭湿地の商業伐採、農園開発、火災で激減。マレーシア・サラワク州では既に密猟・伐採で殆ど生息地はない。インドネシア・中カリマンタンが主な生息地となり、Bukit Raya公園、Mawas公園と、このタンジュン・プティン国立公園だけが絶対な生息可能な地とされていた。

だがアブラヤシ企業 Pt.BW Plantations や Pt.BGA 社が公園区域変更依頼し、地元 NGO・Friends of National Parks Foundation 等が植林してきたブグルでアブラヤシ開発するという。公園内の火災を止めた地もブグルだ。この広い地区とハラパン村の保護オランウータンの餌場になる所もアブラヤシ開発へ許可を与えようという。アジル・ギボン、テングザルも近くに住む一帯は保護地区として貴重に重要な所だ。Stop! アブラヤシ開発!!

今年の総会でウータン・森と生活を考える会の新事務局長に就任した石崎です。ウータンの活動に参加し始めたのは2008年頃からです。今年25周年を迎えたウータンの一員としてはまだまだ若輩です。ウータンは全員ボランティアで上も下もない市民活動ですから、あれやこれやたくさんやっているくらいの立場です。前事務局長の西岡さんには、代表というポストを作り就任していただきました。西岡さんはどこに行っても有名で、関西以外でも熱帯林の話をするNGO・行政・研究者・企業の方問わず、「西岡さんは元気か？」と聞かれます。インドネシアNGOの多くも「He is so crazy, but nice friend!」と言います。まさにミスター・(オラン)ウータンとして、今後もウータンの顔としてご活躍していただければと思います。

しかし、ウータンが25年もの間続いている(西岡さんの暴走を食い止めている?)のは、他のウータンメンバーの粘り強い支えのおかげでしょう。ウータンが最も活発に活動していたSTOP!違法伐採キャンペーンは、残念ながら僕が参加する以前の話です。そのインパクトはとて大きかったようで、「これぞ市民活動の成果!」として今もなお語られることが多いです。また、関西でNGO活動を長くやっている方は、「ウータンまだ頑張ってるんやねえ。」とうれしそうに励ましの声をかけてくれます。僕自身もウータンメンバーのみなさんの暖かい雰囲気の中ででのびのびとやれているのおかげで活発な活動ができており、大変感謝しています。

僕が積極的にウータンに関わるようになったのは、国内外のNGOのたゆまぬ努力もあり、違法伐採の流れがようやく収まりかけてきたころでしょうか。数回、ミーティングに参加した後、突然「インドネシア行くか?」と言われ、何も知らない土地にただ独りで行くことになりました。そこで出会ったバスキをはじめとするFNPFのメンバー、タンジュンハラパン村の村人、他のインドネシアNGOとの出会いは文字通り僕の人生を変えるほどの出来事でした。

特に、バスキからはNGOとしての精神と考え方を学びました。それまでは漠然と国際協力や環境問題に興味を持っていただけでしたが、彼のストイックなまでのこだわりはウータンとつながるところもあり、「僕たちは友達だから」とはじめは頑なにドネーションを受け取ろうとしなかったことや、『地域住民の力を信じること』や『外来種ではなく、原生の種の植林にこだわること』など、この活動の大事な原点を僕に教えてくれました。

インドネシア・マレーシア等のNGOメンバーとの出会いもとても大きく、単なるNGOのつながりを越えた日本の良き友人ということで多大なご協力をいただいています。ポゴールのウェットランドのニョマンさん、ヨヨさん、元BOSFのエミリアさんにはいつもホームステイさせていただき助かっています。ニョマンさんは国際NGOを動かす敏腕と頭脳はさながら、いつも陽気にジョークを飛ばし、人生の苦労話も面白おかしく話すフレンドリーで器の大きい人です。エミリアさんは、イスラム社会で活躍するパワフルな女性という印象の一方、とても家族思いで優しいお母さんとしての一面もあります。ギターテクニックも一流のヨヨさんには、昨年の地球サミット『リオ+20』の会場ではったり再会し、驚いたのは記憶に新しい出来事です。他にも、昔からのウータンと付き合いのあるテラパックのヤヤットさんや、アルピさん、トグさん、ユンさん、アレックスさんなど数え切れない森を愛する友人たちとの出会いがありました。また、昨年のハブソロさんの訃報は本当に悲しい出来事でした。

ウータンとしては、違法伐採キャンペーン後の失われてきた森を復活させる新たなストーリーとして、森と森を繋ぎ緑の回廊を作るため、村人による原生種の苗作りと植林活動の支援を

活発化させてきました。昨年は、苗作りと植林を広げるための冊子を完成させました。また初の本格的なエコツアーを行いました。参加者と村人の交流はとても感動的なものでした。

しかし、現実を目を向けると、パーム油のための新規プランテーション開発など様々な課題が目の前にあります。いま、タンジュンプティン国立公園近郊では、次に記すインドネシア NGO への手紙にあるように新たな開発の危機の瀬戸際にあります。世界の森林全体に目を向けると、失われた森は、2000年～2010年においては、年間約1,300万haであるとも言われています。それはすなわち、多くの美しく多様性のある命の森が失われたということです。

私たちは未だ歩みを止めません。今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

ウータン・森と生活を考える会 事務局長 石崎雄一郎

### インドネシアの NGO へ向けた手紙(一部省略改変)

#### 「タンジュンプティン国立公園近郊での BGA 社による新規開発に対する緊急の協力願い」

『ウータン・森と生活を考える会』は、1988年大阪を拠点に、東南アジアの熱帯林およびオランウータンをはじめとする絶滅危惧種を守るために、日本の大量の熱帯林消費を減らすことを目的に活動を始めました。私たちはまた、2000年以來マレーシアやインドネシアの NGO と一緒に違法伐採や違法密輸に対する調査やキャンペーン活動に携わってきました。

2010年から私たちはインドネシアのローカル NGO、FNPF に対して、オランウータンなどの絶滅危惧種を救うための緑の回廊を作る森林再生プランのサポートと支援を続けてきました。この計画は、タンジュンプティン国立公園近くのタンジュンハラパン村の村人を多く雇用することでブルとパダンスピランで実践されてきました。私たちはまた、数回のエコツアーを行い、日本からのサポーターを村へ連れて行き、原生種の苗による植林を行いました。しかしながら、この地区で新規プランテーション開発が行われれば、大きな影響を受けるのは間違いがありません。

問題の BGA 社はすでに BUPATI(地区の長)から公式の開発許可を受けています。一方、伝えられるところによるとタンジュンハラパン村のほとんどの人は最初は計画に反対していますが、今では多くが企業による村の土地使用を承認しています。現在、村には54の家族があり、土地使用に承認していないのはわずか11人です。BGA 社がすでに HGU(国の事業許可)を取得しているかはわかりませんが、開発をはじめるのは時間の問題でしょう。

私たちは、森林再生の土地を含め、何度も野生のオランウータン、ギボン、様々な保護種の野生生物を見かける生物多様性に欠くことのできないこの地区でのプランテーション開発に強く反対します。

今回、ウータンは FNPF の CEO バユ氏にメールを送り、他の NGO への協力を依頼するようにアドバイスしました。ウータンは、この種の開発が続くと、絶滅危惧種の棲む場所が失われ生物多様性と気候変動に致命的な問題を引き起こすであろうことから、この問題は FNPF だけのものではないと考えます。ウータンは20年間熱帯林の保護に熱心に取り組んできましたが、人も資金も限られています。ですから、私たちはあなたにこの問題を知っていただき、協力を求めます。

私たちは多くの NGO の協力の元に BGA 社の開発計画を停止させたいと思っています。

ウータン・森と生活を考える会 事務局長 石崎雄一郎

## 25周年・2013年ウータン活動方針

長年事務局長をしてきた西岡に代わり、新事務局長に石崎氏を満場一致で決まる。西岡は代表となる新体制を25周年から行う。新体制を決め、総会で方針を確認した。その後、リオ+20会議の窓口役の古澤広祐国学院教授や、本会の顧問・大西裕子弁護士からウータンや環境保全にまつわる講演を実施していただいた。古澤氏には今後の社会動静を講じてもらい、大西氏には今までのウータンの活動・今後の在り方について辛口で報告していただいた。感謝、感謝！ (西岡)

### 2013年活動方針

- 1、タンジュン・プテイン国立公園(TPNP)で地元NGO・FNPFと「原生種の植林」の拡大の支援等
  - 1) 地元NGO・FNPF(Friends of National Parks Foundation)が Boeing 社の助成金で約40haの植林事業拡大につき、近隣地でウータンも8ha目標に再植林拡大を目指す。
  - 2) オランウータン、ボルネオ・アジール・テナガザル(世界で中カリマンタンのみ生息のギボン)、テングザルの個体数、生息地の調査・聞き取りが必要だ！ —川沿い生息のテングザル調査は必須である。アブラヤシ企業が公園外の左岸の開発計画あり、泥炭湿地3m以上あり、「2年間森林・泥炭地開発モラトリアム」に反するからだ。
  - 3) アブラヤシ企業 Pt. BGA, BW Plantations のタンジュン・プテインの計画につき、RSPO、世界銀行等に申入れする。ノルウエー・インドネシア大使館に申入れも検討・・・国立公園法や「インドネシアでの2年間森林・泥炭湿地の新規開発停止モラトリアム」違反の情報交換。
  - 4) アブラヤシ企業調査・・・FNPF等と相互の情報交換・今後アブラヤシ企業の対応・調査する
  - 5) 「森林再生の苗作り資金」の立ち上げをする・・・ウータン別プロジェクトで4月以降へ。
- 2、泥炭湿地保全へ調査・参加・日本でのPR
  - 1) Wetlands Inter 等との連携強化へし、Wetlands Inter 等の泥炭湿地調査研究・参加へ。
  - 2) インドネシア政府が最近「モラトリアム」で保全無視の政策を打出すので、国立公園、森林地の解除等の調査を。
- 3、エコツアー
  - 1) タンジュン・プテインでFNPFが主導の「苗作りプロジェクト」「環境教育」の推進を実施する。
  - 2) ジャワ島のWetlandsのマングローブ林・泥炭地のCO2削減と森林保全の事業への参加を。
- 4、ボルネオ島の密輸材調査・監視と森林保全へ
  - 1) 本年は西カリマンタン・サラワクで調査が必要。サラワクが選挙で木材資金を必要から。
  - 2) Sarawak・・・タイプ首相木材スキャンダルが示され、バル弁護士等との連携・調査等を行う。
- 5、合法材推進へ国等への話し合い
  - 1) Lacey 法進捗状況確認やITTO(国際熱帯木材機関)への各国対策をみる。
- 7、新体制やその他
  - 1) 会計・予算は、①収入源の見直し=a) 会員募集をどう拡大？、b) 助成金中心に頼らない組織 ②講演会PR等、③予算切り詰めは本年度どこまでできたかのCheckを。
  - 2) ウータン内部学習会を4月から予定し、ア) 内容テーマと担当者を決定 イ) できるか再検討

長年の支援者湯川れいこさんからいただいたメッセージです。

湯川さんは、長年音楽評論などで活躍してこられました。

『音楽に恋をして 評伝・湯川れいこ』にはビートルズやプレスリーとの親交をはじめ、有名なミュージシャンのエピソードが満載です。書評に「持ち前の美貌と度胸で戦後日本の最先端を駆け抜けたその半生は、日本の洋楽史そのもの」とありました。

.....

今年36才で、今は一息の父親になって息子が3才で、大頃、セロセロと喘息気味だったことから、食品の添加物や水に含むミネラル、注意が何々ようになりました。

そして平成元年(1989年)のウーマン1000という環境団体と立ち上げられたりから、地球の環境破壊や温暖化の問題にも意識が向くようになり、「ウー・タニ・森と並進を考える会」からの呼びかけに応答をするようになったのだと思います。ですからかれこれ20年以上の付き合い合いになるのでしょうね。

水の浄化に取り組んでみて、いくら河川をきれいにしても、山や森林が元気に整備されていなければ駄目だという事が解ったように、マレーシアやブラジル、カナダ、ペリウ等々の森をちゃんと残していこうと思っただけ、私たちの日常生活や意識そのものから変えていかなければいけないことも、少しづつ解って来ました。

そして、80年代~90年代の環境省の中央環





読者会の委員とやるようになって、90年代には原子力委員会からのお声がかかり、その後にはいろいろに、過剰化を食い止めるために原子力発電を推進するというのが国の政策に、大変強い疑問を持つようになりました。

そして、電力界から脱原発の運動にも参加して来ましたが、2011年3月11日に、あの大地震と、福島原発事故が起きたのです。

今も原発の被害に悩む場所を奪われ、16万人の方が避難生活を送っていることが、発電量の削減やスマートグリッドなどの有効手段<sup>（注）</sup>の取られないままに、「安全な原発から動かす」という声ばかりが、<sup>（注）</sup>中央からは聞かなくて来ます。

他の国はともかく、地震列島である子指の先ほどの日本という<sup>（注）</sup>国に、安全な原発は有り得ないのである。オ、被災地に行けば、除染のために集められた土や草木などのゴミが大きな黒いプラスチック・バッグに入れられ、行く場所も無く送ると思われます。



に於て、二いふ、真に異様な光景を目にしてい  
る方も多いことでしょう。

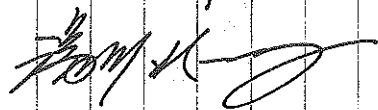
皮肉なことに、孫の誕生日が3月11日で、  
先日禍3才になりました。やはり温暖化と押  
さえて、二酸化炭素を増やさなければ、  
これから原子力発電が必要だと言われれば、  
もう一度どこかで事故が起きたら、私たちが日本  
人は住むことが無くなるでしょう。

これがほんのほんの大変で先が見えない率でも  
、私たちが未来の命のために、森林を守り、  
海を守り、大地を守り、木を守って、温暖化  
による環境破壊を正面から向き合っていく  
いく地に道は無いのです。

これから木や安全な食糧などをめぐって  
、国と国との対立や争いが増えてくるかも知  
れませんが、大からこそ私たちが一人でも多  
くの仲間と共に、子供たちの手をとって  
握りながら、ニコニコとあきらめずに頑張  
っていかなくてはならないかと思っております。

これから、オバアケーン、頑張ります！

音響評論・沢岡



私が初めて FNPF を訪ねてカリマンタン入りしたのは、2009 年の 3 月です。

以前から環境活動に興味のあった私に、素晴らしい活動をしている人達がいる、と、知人が紹介してくれたのがきっかけでした。

パームオイル開発や金の採掘による森林の伐採。狩猟目的などで人の手によって起きる火災のため焼失していく森林。それらから、文字通り必死で森を、動物を、命を守っている素晴らしい仲間達との出会いが、それでした。

美しい自然と動物達に溢れているはずのカリマンタンは、実はもう傷だらけになって、至る所で血を流し悲鳴をあげていました。失われていく森、消えていく動物達、その命を、まるで自分の家族を守るように一生懸命に守っている FNPF との出会いが、私の人生を大きく変えたように思います。

あれから 4 年、今回の訪問で 6 度目となりました。訪れる度にどんどん広がっていたその傷口が、悲しいことに今回は急激に悪化していたように思えました。

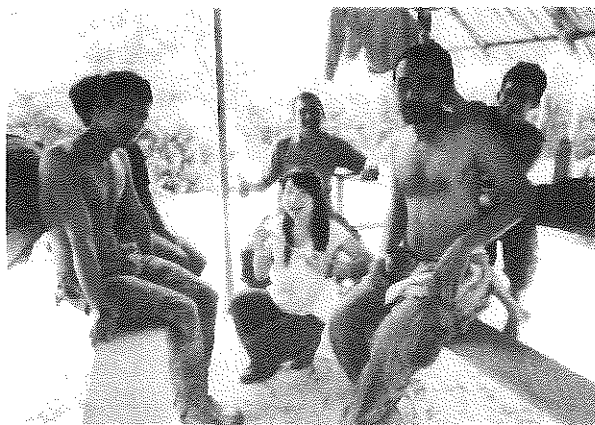
FNPF のリーダーである BASUKI に 2 年前に最初に連れて行ってもらった土地。獲物を獲るために何度も焼かれ、荒れ果て砂漠化し、かろうじて小さな森が点々と残っただけの LAMANDAU は、今では FNPF による植林が進み、かなりの広範囲に苗木が植わっていました。施設付近の植林可能な場所は既に植林を終えてしまったようで、最近では数 km 離れた植林地までトラクターにポット苗を積み込んでガタガタと運んでは植えているようです。

育てている苗木も、ポットの中から早く広い土地にお引越したい、とばかりにすくすくと元気に成長しています。

スタッフも増え、施設も充実し、快適に滞在できる場所が変わっていました。

初めて LAMANDAU を見た時は、自然に対するあまりにも酷い人間の仕打ちに、ただただショックで涙をこらえるのに必死でしたが、そんな荒れた土地すら、この FNPF のみんなにかかっては「いつか大きな森になる」希望の土地に変わってしまうのですね。

「AKAN JADI HUTAN YANG BESAR 日本語では、オオキナ モリニナルだよ。」と、BASUKI に教えてみました。「オオキナ モリ ニ ナル」。気に入ってくれたようで、何度も何度もニコニコしながら繰り返していました。



LAMANDAU で嬉しい数日を過ごし、FNPF のスタッフ達の家のある TANJUNG HARAPAN に移動したのですが、そこで見たものは、パームオイル開発のため、ますます広がるアブラヤシの植林地。ほんの一年前まではまだ森であった場所。たくさんの動物達が集い、生きていた美しい森が、鬱蒼とした気味の悪いアブラヤシの林に姿を変えていました。

ああ、また、たくさんやられちゃったんだなあ。

1年に1度しかそこに行かない異国人である私ですら、その森が消えると心が痛み、涙がこぼれます。たくさんの命を育んだ熱帯雨林のその森は、怖ろしいほどの生命力を持ち、神秘的ですらあります。その森を壊しちゃうなんて。

その森を、ずっと見つめ、必死で守ってきたその地に生きる人達は、消えていく森にどれだけたくさんの涙を流し、深い傷を負ってきたのでしょうか。

残った森は、必ず守る！ BASUKI 達は、残ったわずかな森を土地の所有者から買い取り、パーム開発から守るのだ、と計画をたてているようです。

一口に「森を買い取る」と言っても、それは簡単なことではありません。小さな森、とはいえ、土地にするとそれは広大で、こちらの何 ha は誰々の土地、あちらの何 ha は誰々の土地、と分かれているようで、しかもそれを証明する書類などは無いに等しく、まず土地の所有者を見つけること自体がなかなか難しいらしいのです。

所有者が見つかったとしても、売ってくれるよう説得が必要ですし、最近ではパーム企業が通常の倍近い額で土地を買い上げている所もあるらしいので、通常の価格ではなかなか首を縦に振らない人も増えてきているのが現状だそうです。資金集めに頭を悩まされ、土地の所有者探しに奮闘し、自分達に売ってくれるよう必死に交渉し....

その日も BASUKI は夜遅くまで村の人とそのことについて話をしていたようです。絶対に、土地をパーム企業には売らないで欲しい、と。

私が BASUKI を知ってから、BASUKI のずっと変わらないところ。彼はとにかく話をするのです。自分の思い。自分達の望むもの。その理由。何が良くて、何が悪いのか。どうして悪いのか。それをきちんと相手に話す。とにかく、話をする。そして、相手の思いを聞く。相手の願いを。

私が4年間ずっと変わらず見てきたのは、一生懸命に「話をしている」BASUKI の姿です。

「ちゃんと話をする」ことの大切さ。それを、私は BASUKI から教わりました。

今回、とても悲しいことがありました。

FNPF のみんななどいつも一緒に苗木を育て、植林をし、森を守っていた村人達が、FNPF から離れ、パーム企業側についたということです。

企業側についたといっても、今はまだパームの栽培地で働くとか、自分達の手で森をどんどん伐採している、とかそういうことではなく、パーム栽培に対して反対しなくなった、ということらしいです。いくつかの約束ごとをもらって。

約束。それはきっと、お金であったり、電気であったり、いろいろな生活に必要な物の提供などと思われます。

でもそれは自分達が今まで植えてきた木や、守ってきた森を伐られても反対しないということ。怒らないということ。それを受け入れるということ。

恐らく、家族を思って、生活のため、の決断だと思います。でもその決断が、どれほどの悲劇を招くか。

帰国前日の夜に BASUKI が語ったこと。

自分が許せないのは、今までたくさんのことを語り合い、目的を同じとし、分かり合っていたはずの村人達が、今、目先のことしか見ていないということ。もっと先のこと。森がどんどん伐られて、動物達が死んでいき、土地が壊れ、それは将来的に必ず自分達の身に返ってくるということ、その時の悲劇を誰も考えていないから。それが悲しくてたまらないのだと。

「村のみんなは、FNPF から離れていってしまったけど、自分は、今でもあの人達のことが大好きなんだよ。」

TANNJUNG HARAPAN の朝は相変わらずとても綺麗でした。犬がとことこ道を歩き、村のみんなが朝から集まってコーヒーやお茶を飲みながら談笑している。その横を通り過ぎ川辺に抜けると、まだ少し朝靄のかかった川岸ではお猿達が木の上に姿を現し、ギボンの声を絶えず聞くことができました。

村人達がこの美しいものを、「失くしても構わない」と思っているとは、どうしても信じたくありません。

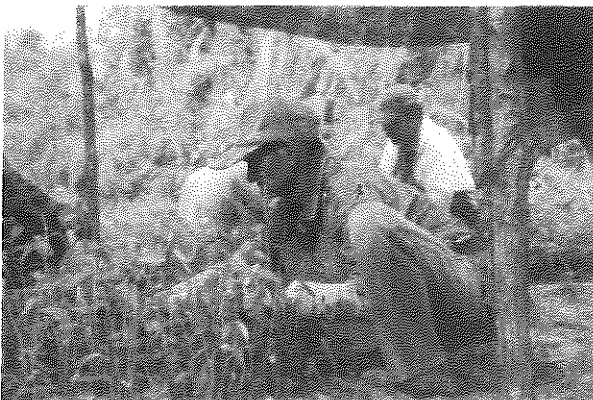
3年前、ウータンの石崎君が「あなたの夢を描いて下さい」と言って TANJUNG HARAPAN の村人に手渡した画用紙に描かれたのは、永遠に広がる森と、その森に棲む動物達や自分達人間の姿でした。その気持ちが消えてしまったとは、どうしても思いたくないのです。

ついこの間まで、村人全員が知っていたこと。この土地にパームの林が生み出すものなんてありはしないということ。単一種で作られた林には動物も棲めません。棲めないどころか、そのパームの林に迷い込み、殺されたオランウータン達が、今までだってどれだけたくさんいたことか。土壌も汚染され、水もなくなり、森林再生も不可能になった荒れ果てた土地が、近い将来、残るだけなのです。それがどんなに危険なことであるか。

どうか、一日も早くみんなが目を覚ましてくれますように。

貧しくても、目先の金銭には代えられない大切なものを、みんなで一生懸命守っていたあの頃に、早く、早く戻ってくれますように。あの頃と同じ優しい笑顔で私を迎えてくれた村人達の姿を、もう一度、あの美しい森の中で見るができる日を、願って止みません。

「今でも村のみんなのことが大好きなんだ。」と、寂しそうに言っていた BASUKI の思いが、みんなに届きますように。



## 開発で揺れる村へ

～5年ぶりにセコニェール村を訪れて～

中村彩乃

3月12日、およそ5年ぶりに中部カリマンタン州パンカランプンの空港に降り立った。5年ぶりの空港は、その規模や建物などは変わっていなかったが、以前に比べて高級ホテルやタンジュン・プティン国立公園へのツアーを斡旋するエージェントの宣伝や看板が目についた。空港を出ると、FNF P (Friends of National Park Foundation) のバスキが待っていてくれた。バスキは、タンジュン・プティン国立公園やその周辺で、森林の再生や環境教育などの活動をしている。今回、オイルパームのプランテーション開発計画が進み、村の中で賛成派と反対派に分かれてしまっているというセコニェール村に入って、村人の思いを聞き出すというミッションを受けている私は、空港のあるパンカランプンの街には滞在せず、すぐに村に入ることにした。バスキのアドバイスで、反対派の主峰だと思われるFNF Pとは一切関係のない振りをして村に滞在し、中立的な立場で、賛成派、反対派両方の意見を聞くことにした。そして、あわよくば、村長か副村長の家に泊めてもらって、いろいろな情報を聞き出そうと企んだ。

5年前も、私はセコニェール村を訪問している。オランウータンのいるキャンプ・リーキーに行く前に、ガイドが連れて行ってくれたのだ。その時はちょうど収穫の時期で、村の水田にはたくさんの稲穂が実っていた。そんな豊かな村で現在、油やしのプランテーションの計画が持ち挙がっている。2012年6月に、プランテーション企業が発表した資料によると、プランテーション企業の名前は、**Bumitama Gunatama Agro (BGA 社)**、9000ヘクタールの広さのプランテーション開発を予定しており、その予定地には、セコニェール村のほか、クマイ・ス



村には3月からプランテーション企業によって発電機が入った。

発電初日は副県知事も駆け付けた。その副県知事の来村を祝う旗がたてられていた。

ブラン村、トゥルック・プライ村も含まれている。

クマイの港から、セコニェール村へはスピードボートで向かうことにした。クマイ港を出て、タンジュン・プティン国立公園へ続く入江に入ると、両岸はニッパ椰子が群生している。見上げると、テングザルの集団が木の葉を食べている。

村に着いてから、副村長の自宅に向かった。副村長は、突然の外国人の訪問に、驚きつつも、必死で笑顔を作っているように見えた。当たり障りのない自己紹介が終わると、私はおもむろに尋ねた。

「副村長、今夜ここに泊めてもらえませんか」

副村長は驚き、しばらく何も言葉がでなかったが、そのあと大きく笑い出した。

「この家には人が多い。あなたのサポートはしてあげるけど、泊めてあげることはできないな」

予想通り、副村長と仲良くなる作戦はいきなり失敗してしまった。

その日は、FNPFのメンバーの家に泊まることになった。村にいるFNPFのメンバーは、プランテーション計画に反対しており、計画を受け入れるための同意書にはサインしていないという。彼らが反対する理由は、油やしのプランテーションは、一時的には村や村民に利益をもたらすが、次の世代には何も残せないというものだった。だが、村の人々はみんな親戚同士。彼らを批判することはできないと言う。私は、5年前に見た稲穂

「プランテーションに賛成とか反対ではなく、仕事があるからする。それだけだ」





の話をした。確かに、かつてはコメを作っていたが、数年前から洪水が頻繁に起こるようになり、コメ作りはできなくなったという。果物を植えても、洪水で海水が入ってきてしまい、上手く育たない。確かに、油やしプランテーションの周辺では、洪水が頻繁に起こるといことが、報告されている。隣村にすでに油やしのプランテーションがあることから、その因果関係

が疑われるが、真相は分からない。

翌日は、賛成派の家に泊まることができた。彼らは、最初は突然の外国人客に警戒しているようだったが、すぐに打ち解けてプランテーションに対する思いを話してくれた。彼らによると、セコニェール村民のうち、8割は賛成派であるという。彼らは、隣村のプランテーション労働者から多くの情報を得ており、プランテーションで働くとどれぐらいのお金が入るのかよく知っていた。隣村では、プランテーションでの日給が53000ルピア（約530円）、さらにプランテーションの契約農家になれば、3か月に一度1000万ルピア（約10万円）の収入があるという。そして、彼らがお金を必要としている理由として、子どもの教育費を挙げた。現在、セコニェール村には中学校までしかなく、高校に進みたければ、大きな町まで行かなくてはいけない。そこには、自宅から通うことができないため、下宿をさせる必要がある。また、収入があれば、子どもたちを高校だけでなく、大学まで通わせることができる。更に、プランテーションによって、村の人口も増えれば、村に高校ができるかもしれないと期待していた。

子どもの教育以外に、農業をまたやりたいという思いもあった。油やしプランテーションでの労働時間は毎日数時間だけであり、時間ができることから、午後からは村に残る畑で農業をしたい、お金があれば、タネや農具も買うことができると話していた。これらの話から、洪水続きでコメ作りができなくなったことが、村民に将来への不安を抱かせているのかもしれないと感じた。また、隣村のプランテーションが拡張を進めており、セコニ



ェール村の中まで広がる可能性がある。自分たちの村が、知らない人間が管理するプランテーションになるくらいなら、自分たちのものにしたいという思いもあった。

今回の滞在で、開発に対して住民には様々な思いがあることがあった。今回のプランテーション予定地は、2012年の大臣令により、商業用に使用できる土地へ区分が変更されている。更には、ノルウェー政府との間で結ばれた開発のモラトリアムエリアに指定されている場所も一部のみであることから、インドネシアの法律上、この開発には問題がないといえるかもしれない。

だが、タンジュン・プテインは国立公園であり、オランダ統治時代の1936年に既に野生動物保護区に指定され、UNESCOからも保護区として認められた特別なエリアである。泥炭地も多く、油やしのプランテーションには適さないと言われている。そのようなエリアが、どのような理由であれ、開発されてはならないだろう。村には、豊かな森林やオランウータンをはじめとした動物を見ることができるツーリズムや酪農など、様々な収入源となるものがある。実際に、それらから、収入を得ている村民も多い。オイルパームのプランテーション計画を受け入れるということは、村民が享受できる、一見当たり前にそこに存在する尊い価値あるものを失うことでもあるのだ。西カリマンタンで、オイルパームのプランテーション計画を受け入れたある村の住民に、受け入れた理由を尋ねるところ答えた。

「いつも目の前ににあった森の木を伐るだけでお金になった。これはすごいって思った」

村民には、一時的に  
手に入るお金の魅力  
に惑わされず、そのお  
金と引き換えに何を  
失うのか考えてほし  
い。そして、失ってし  
まう前に、その価値に  
思いを馳せてほしい  
と願うばかりである。



隣村のプランテーション。泥炭地のため、木がまっすぐに育たず、倒れてしまっているものも多い。

**【ECとインドネシア、新木材貿易合法性ルールを採用】**

2013年1月1日よりインドネシアで木材製品の輸出の際には、伐採時から輸送、取引、加工までその製品の合法性を保証する書類を添付することが必要になった。一方、EUでは2013年3月3日より市場へ木材、木質製品を出荷する事業者の義務を定めた規則(EU)No.995が施行される。インドネシアとEU間の森林法施行・ガバナンス・貿易の2国間合意(FLEGT-VPA)で、将来的にこの合同の施策がEU市場向けインドネシア木材製品の貿易を増加させると。(資料:フェアウッド News)

**【インドネシア、森林等で新規開発停止本気か?】**

1月15日Mongabay Newsで、インドネシア林業省高官は「新規の森林伐採権に対しモラトリアム(一時停止)を拡大の必要がある」と発言。今年5月に期限切れとなるインドネシアのモラトリアムは、2011年にノルウェーとの間で合意し、1450万haの泥炭地と森林が新規伐採を免れた。開発の再計画を狙ったものだった。発言は今後の資金繰りや世界へのPRか。だがタンジュン・プテイン公園の植林地の公園外への許可申請を一方で受け、開発予定としている。(資料:Mongabay.comと1-3月現地FNPF等)

**【スイス、木材汚職のサラワク首相の財産差止め依頼】**

ブルーノ・マンサ・ファンドは、スイス議員が木材汚職につきサラワク首相タイプの財産の差止めを求めたと報道。「タイプ家は犯罪組織のごとく振舞う」とソマルガ議員。スイス議員20名が首相タイプ家利益にならないよう、スイスの銀行へ財産の差止め要請を議会に示した。弁護士、一部議員等は司法長官に正式に刑事告訴。3月27日ロイターNews等は、タイプ首相等がマレーシアの調査機関に2度の取調を受けたと。(資料:BMFNews1/9、FTNews等)

**【APPグループ、自然林伐採の全面的中止を誓約??】**

アジア・パルプ・アンド・ペーパー・グループ(APP)は、インドネシアの自然林の即時伐採停止を発表。APPの全ての原料供給会社は2月1日以降、APPは「将来の植林開発を森林地域で行わないことを確かなものとする」と。同社は何度も同様発言をし、眉唾もの。同社はジャカルタ本社だけでなく、近年中国で7工場や中国本社も設置し、倍以上の生産予定。(資料:産経biz、ウーダン調査)

**【中国は世界の違法伐採貿易の中心】**

12月11日ガーディアンNewは、中国が世界の広範な地域の森林破壊する違法伐採の中心と指摘。大学の研究機関、WWF、グローバル・ウィットネス等NGOsは、中国企業が絡む中央アフリカでの違法取引の存在を明らかにした。ミャンマーとロシアは直接中国の町や港に繋がり、違法伐採が横行していると。またラオスの森林破壊も中国企業と絡み、ラオス政府は伐採規制制限を2013年に実施と発表。EIA(Environmental Investigation Agency)は本年2月、モザンビークの森林から中国の企業に流通する木材の48%が違法伐採され、蔓延する汚職が潜んでいる。

また昨年11月末にEIAは『中国へ破壊への欲求』とのレポートを発行。報告書は、中国の輸出主導型の木材産業が急増の主要な海外家具・建設会社からの需要し、中国の新中間層の消費の結果で木材需要が10年で急増したのを明らかにした。またEIAは公的企業や北京、地方政府高官は高利益の違法貿易の責任を問われると発表した。(資料:EIA、ガーディアン誌、フェアウッド News等)

**【2012年の中国の原木輸入量が初めて減少】**

2012年の中国の原木輸入量は初めて減少。前年に比し443万3100m<sup>3</sup>減。カナダの中国向け木材輸出量は10年間で22倍になるが、ニュージーランドからの木材輸入量の昨年比4.6%増以外、他の原木輸入国からの輸入量はすべて減少。最大のロシアから輸入量は約1118万m<sup>3</sup>(昨年比20.5%減)と減少。例えば内モンゴル満洲里(マンチュリ)港の輸入量は890万m<sup>3</sup>で、前年比12.4%減。これは、不動産業界に対する規制の影響を受けて木材市場の需要不振と、ロシアの対中国原木輸出枠規定で輸入量が減少等が主要因という。

2011年の世界の製材11%、木材パネル38%は中国の生産により、中国は原木、製材、紙パルプの最大の輸入国、板材は最大の輸出国となる。また広東省東莞市に国内最大の木材交易センターが2013年11月竣工した。

(資料:フェアウッド News、等)

**【フィリピン、台風で違法伐採等で1450名が死亡等】**

フィリピン・ミンダナオ島で12月台風24号により、1450名が死亡・行方不明に。災害本部ラモス本部長は「何十年にも及ぶ採掘と違法伐採が原因だ」と指摘。(各紙)

**会費・寄付をいただいた方（五十音順）** 2012. 12～2012. 4. 9

☆振込用紙をもって領収書にかえさせていただきます。

（領収書の必要な方は、お手数ですが、振込用紙にその由ご記入ください）会計 井下

伊藤真千子 井下祥子 井下廣 H・I 上田廣子 海沼由紀夫 加賀瀬みどり 藤由美  
 高阪真帆 後藤裕己 関目実 千代延明憲 寺川庄蔵 中島小夜子 浪川光代  
 橋本征二 平井英司 平野誠 藤井克正 藤岡正雄 古川文月  
 「地球の友・金沢」三国千秋 「熱帯林保護団体」南研子 M・M 村田和子  
 柳下恵子 山内美登利 吉田千里 龍谷大学 渡邊晋

<おたよりから>

\*定期的な情報ありがとうございます。皆様の地道な活動には敬服しております。

平井英司

\*クリスマス前に久々の雨季のアマゾンから戻りました。イヤー、ブラジルの熱帯林も破壊のスピードがすごい!! でも24年目ががんばります。

南 研子

\*ご活動に感謝しています。

山内美登利

2012年度決算

単位:円

収入		支出	
繰越金	1,061,096	会報製作費	224,574
会費	253,000	事務所家賃	144,000
カンパ(切手カンパ含む)	1,392,440	送料	85,920
物品販売	6,500	他団体への協賛金	25,000
マイチケットより	50,000	会場費	3,900
地球環境基金(2011年12月～2012年3月)	934,000	交通費	1,110,253
講演会資料代	6,950	資料費	31,500
計	3,703,986	事務費	17,472
		地球環境基金(2011年度分残金)	934,000
		海外NGO支援	25,000
		海外植林冊子印刷費	100,000
		次年度へ繰越金	1,002,367
		計	3,703,986

森の救援基金

収入		支出	
前年度繰越金	879,132	植林支援金	200,000
カンパ	150,000	次年度へ繰越金	829,132
計	1,029,132	計	1,029,132

**インドネシア・タンジュン・プティン国立公園の  
オランウータンや森を守るための葉書にご協力を！**

今号の報告にも記載のように、中カリマンタン・タンジュン・プティン国立公園は、風雲急を告げています。中カリマンタン州知事がアブラヤシ企業の開発に際し、国立公園ブルグ地区の解除を認め、進めようとしています。タンジュン・プティン公園は野生のオランウータンが多く住みだしたばかりか、世界中でこの地域などにしか生息していない希少種ボルネオ・アジール・ギボン(ワシントン条約保護種 I)やテングザル等が生息し、生物多様性の森へと実践してきた場所です。

ノルウェーとインドネシア政府は、森林や泥炭湿地のモラトリアム[一時停止]を決めるにあたり、タンジュン・プティン公園等を考慮し進めたにもかかわらず、Pt.BGA 社が Pt.BW Plantations 社に変わってアブラヤシ開発を強引に進めようとしています。是非、Pt.BGA の計画する開発を止めるよう貴方の力を貸して下さい。[オランウータンや森を守るためのはがき]にご協力ください。

貴氏名・住所(日本語が良い)をお書き下さり、ページ下を切り、切手を貼り、裏側の記載のウータン事務局住所へご送付頂ければ、当会から Pt.BGA 社、州知事へ貴方の意向を送付します。

宛先1: Pt.BGA 社 / Board Director & Executive Chairman, Mr. Lim Gunawan Hariyanto

Jl. Melawai Raya No.10 Jakarta Selatan 12160 ID(Indonesia)

宛先2: 州知事 Bupati/ Pak Ujang Iskandar Kotawaringin Barat(Kantor Sekretariat Daerah)

Jl. Sutan Syahrir No.2 Pangkalanbun, Kotawaringin Barat, Kalimantan Tengah 74112, ID

宛先1の送付: \_\_\_\_\_(切り取り線)\_\_\_\_\_ Bupati州知事にはコピーを送付します。

Dear Sir Mr. Lim Gunawan Hariyanto, the Board Director & Executive Chairman of Pt.BGA

Please stop your development of palm oil plantation in order to save forests in Tanjung Puting National Park, Indonesia, where Orangutan, Gibbon(Endangered Species) and many animals live. Moreover vast CO2 is contained in its precious peat land. You will cause the global destruction of ecosystem by the deforestation.

Pt.BGA 社 Lim Hariyanto 会長・最高責任者 御中

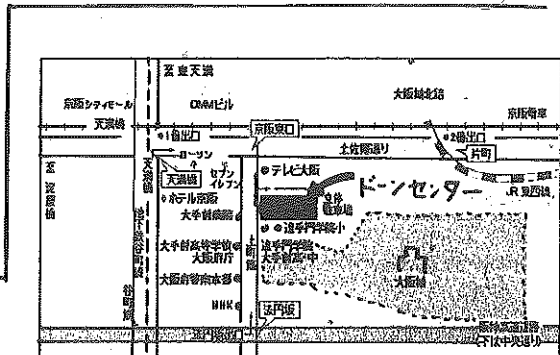
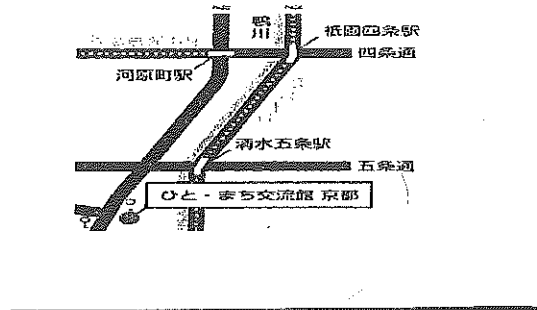
インドネシア・タンジュン・プティン国立公園の森を守るために、貴社が計画するアブラヤシ開発を早急に停止してください。その森には、オランウータンやギボン(絶滅危惧種)等の多くの動物たちが生息し、泥炭湿地には莫大な二酸化炭素が固定されています。この森の破壊は地球規模の生態系破壊を引き起こします。

氏名[Name]: \_\_\_\_\_ 住所: \_\_\_\_\_

# HUTAN ACTION SCHEDULE

## 5/25[土] 「オランウータンの森を守ろう！」京都集会

P6:30-8:45 ひとまち交流館京都/参加費:資料代 500 円/話/石崎雄一郎、中村綾乃、武田有希子  
 ▼ 京阪五条[京阪線]駅から徒歩 9 分]Tel)075-354-8711 京都市下京区・河原町五条下る東側



## 5/26[日] 「オランウータンの森を守ろう！」大阪集会

P6:30-8:45 大阪ダウンセンター/参加費:資料代 500 円/話/石崎雄一郎、中村綾乃、武田有希子  
 天満橋駅[(京阪線、地下鉄)下車、東へ 7 分] Tel)06-6910-8500 大阪市

今まさに壊されようとしているボルネオの自然。私たちがインドネシアの中央カリマンタン・タンジュン・プティン国立公園へ行き、実際に見たことをなま報告します。ご参加ください。

## ウータン・森と生活を考える会



[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36  
 サクラビル新館308  
 「関西市民連合」気付  
 Tel.06-6372-1561

<http://www.hutang.jimdo.com>

【一部】1300円【年会費】4000円

【郵便振替】00930-4-3880

◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。

◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。